

第2回 自律移動支援プロジェクト推進委員会
議事概要（案）

1. 日 時：平成16年6月18日（金） 10:00～11:45

2. 場 所：明治記念館 富士の間（2）

3. 議事次第：

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議 事

（1）第1回委員会の議事概要（案）

（2）これまでの活動経緯と今後の進め方

（3）委員長所感

（4）質疑応答

（5）その他

4. 閉 会

4. 議 事：

■プロジェクト全体の進め方について

【委員長】

- ・ 本プロジェクトを推進するにあたり、「IPR（知的財産権）ポリシー」、「セキュリティポリシー」、「プライバシーポリシー」の3つが重要であり、これらを早い段階で明確にするためにも秋からのプレ実証実験が有効であるとともに、専門的な検討の場を設ける必要がある。
- ・ 本プロジェクトの特徴の一つとして、技術的仕様を決める手続きの過程についても明らかにしていくなどのオープン性があげられる。
- ・ すべてを細かく決めることは出来ない。決め事はなるべく少なくし、将来的に発展性・汎用性のあるものとしていく姿勢で進めていくほうがよい。

【大石国土交通省技監】

- ・ 歩行者空間だけでなく、道路空間は車と自転車と歩行者とが共有しているので、これらのより良い共存関係を深めていく上での活用も検討すべき。
- ・ 国土交通省として、全面的に検討していく体制をとるとともに、関係省庁とも十分に連携をとって進めていきたい。
- ・ 本プロジェクトは、従来までの完成されたシステムを展開・普及させるものではなく、発展しながら展開していくものであり、発意する市町村のサポート方法も含め、十分に検討していかなければいけない。

【竹中委員】

- ・ 障害者はできる限り自らが思ったとおりに自分の力で動きたいと考えている。

- ・ 健常者でも高齢になれば、身体能力の低下による移動制約がある状況になる。本プロジェクトは、今、障害のある人たちのためだけのものでなく、明日の自分たちのために行っていくことを理解してもらう必要がある。その意味では、障害者の意見はわれわれの水先案内となる。

【長谷川（貞）委員】

- ・ 視覚障害者のため、プロジェクトのことを耳で聞いていた時は本プロジェクトの名称の文字が、「自立」と思っていたが、「自律」であることをパソコンのテキスト文書で読んで初めて知った。この意味は、プロジェクトが障害者、高齢者の自立を目的とし、自立のための情報をできるだけ与えるが、その選択方法と判断は障害者・高齢者の個々が自律的に責任をもって行なう意味と捕えた。つまり、最後は自分の判断で、自分で動きなさいということと解釈する。
- ・ 本プロジェクトが実現すれば、視覚障害者が、土地勘のない全く初めての場所でも自由に行けるようになるものと期待する。
- ・ おおよそこの 20 年で東京などの都会では、鉄道の駅における誘導用ブロックの整備、また、特にこの数年でエスカレーターの整備が充実してきたと思う。エスカレーターの整備が進んできたことから、本プロジェクトにおける資料について「エレベーターなど」という表現は「エスカレーター・エレベーター」とするのがよい。
- ・ 現在では、都会の駅などにおける人の上下の主な移動手段は、明らかにエスカレーターになった。したがって、視覚障害者が安全にこれを利用できるようにすべきである。

【総務省情報通信政策局技術政策課】

- ・ ユビキタスネットワーク社会の実現に向け、研究開発等に取り組んでいる。このユビキタスネットワーク社会は、「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも」ネットワークへの接続を可能とし、あまねく ICT の恩恵を享受でき、より良い社会の構築を目指すもの。このうち、「だれでも」という点について、障害者も含めたすべての人を対象としている本プロジェクトに協力していきたい。

【経済産業省】

- ・ 福祉機器全般について取り組んできた。本プロジェクトで日本が持っている技術をすべての人の機会均等のために役立てていけるよう協力していきたい。また、それを世界に発信していきたい。検討にあたっては、移動支援の枠組み全体の中で、情報提供をうまく活用できるようにしていくことが重要である。

■ 各検討事項について

【委員長】

- ・ 実験結果をフィードバックして仕様を作成していくという方法をとっていく。また、評価結果もオープンにしていくべき。
- ・ 障害者が 100 人いれば 100 人の要望がある。それぞれの身体状況に応じた使い方ができ

る仕組みとしていくほうがよい。

- ・ 駅に関しては、ハード面での整備に加え、本プロジェクトでの情報提供により、より便利に移動できるようにしていきたい。

【川嶋委員】

- ・ 第 1 回委員会でも意見したが、ユビキタスネットワーク技術を活用し、自動車への適用についても検討してほしい。
- ・ 「ロケーションベースサービス」は、GISを中心に始まったものであり、携帯電話を使った位置や場所に依存したサービスのことを言うが、それ以外の情報とも整合を取れば世界的に通じるのものになる。

【後藤委員】

- ・ プロジェクトを進めていくのにあたって、技術的な問題も重要であるが、制度設計が大変大事であると認識している。住居表示など位置情報に関する現行制度との関係や関係省庁との調整が大切である。
- ・ 実証実験を重ねて全国展開していくためには、実験の評価が大事である。客観的な評価をすることでより完成形に近づけられる。

【長谷川（貞）委員】

- ・ 現在では、一般に、「振動（バイブレーション）」は、携帯電話のマナーモードぐらいでしか使用されていない。しかし、背部、腰部などの体表の6カ所以上の場所を、振動による触覚感覚を使うことにより、体表点字として表現できる。これは、視覚障害者などに対し、周囲に騒音がある場合や、当人が難聴を伴う場合でも、音声に代わり、ある程度の情報を伝えられる。このことも実証実験の対象としていただきたい。

【長谷川（洋）委員】

- ・ 聴覚は不自由がないと思われがちだが、先日も飛行機の搭乗口が突然変わったが表示が出ない。待っている人たちが急に移動し始めたので、慌てて係の人に筆談で教えてもらった。音声情報だけでは分からない人がいるということが、頭の中から抜け落ちている。
- ・ また、道を歩いているときに、後ろから車が来てもわからず怖い思いをしたことが何回もある。このようなことも、車のクラクションを電波で流し、振動で伝わるようになればいいと思う。

【兵庫県】

- ・ 先月神戸でデモが行われたが、早い段階から障害者が参加できること、アカウントビリティの獲得という点で大きな意義があったと感じている。
- ・ 本年（平成16年）12月には神戸で全国障害者芸術文化祭が行われ、また来年1月で震災から10年の節目であり、国連防災世界会議も開催される。このような機会にアピールできればよい。

→国連防災世界会議において展示、テクニカルツアーを実施。

【神戸市】

- ・ 5月のデモでは多くの来場者があったが、利用者アンケートを見ると75%が健常者であった。秋のプレ実証実験ではいろいろな障害者の方の参加を期待する。これにより、利用する人の意見を吸い上げ、使う側と作る側が支えあっていくものとしたい。

→プレ実証実験の期間中、さんちかにおいて、こうべUD広場の紹介による視覚障害の方、盲学校の教諭などに白杖を使った経路誘導およびシールタグからの店舗情報の取得などを体験していただいた。

【警察庁】

- ・ 音の出る信号機など PICS の開発を行ってきた。今回の検討が、これらとうまくつながるように議論していきたい。

【厚生労働省】

- ・ 地域生活支援として障害のある方々の情報支援について検討を行っている。これらの成果を提供していきたい。

【ITサポーター】

- ・ GPS で位置がわかれば良いだろうと思っていたが、駅の構内などの建物内では使用できないことや、運行中の電車内の何号車にトイレがあるのかといった相対的な情報提供が出来ない。そのような点からも「場所」情報というのは重要な考えであると認識している。
- ・ 本プロジェクトのポイントとして赤外線やタグなどの「マーカー」があるが、屋外での使用にあたっては維持運用が難しいと思われる。われわれもパッシブ型の機器でもかなり苦労しているが、アクティブなものではなおさら難しいだろう。インフラとして正しい情報提供をするためには24時間体制の保守管理体制が必要だと思う。また、この点に関しては情報提供していきたい。
- ・ これまで技術的な検討は行ってきたが、ユーザー側からの要求がなかなかわからない。どんな機能が必要か。ユーザーのニーズとメーカー側とのマッチングが図られるよう検討を進めてほしい。
- ・ 鉄道、駅で困った経験をした、という意見が多い。われわれも10年ほど検討を進めており、その結果をぜひ活用していただきたい。

以 上